

特選

天 咲くことの待たるる桜道の奥

遠野市 松本 良子

句評 花を待つ思いの裏に病魔退散の願いがこもる。簡明にして深い。

地 月浮かべゆつくり自転大代田

奥州市 岩渕 正力

句評 自転しているのはいうまでもなく地球。壮大な構図の句。昼の月でも夜の月でもよい。

人 大震災の海より来るやませかな

登米市 藤野 尚之

句評 大津波を起こした海から今は冷たいやませが吹きつける。底知れぬ威力を秘める海。

秀逸

森をなす一本の巨樹田植歌

大崎市 佐々木克狼かつろうだ駄

ウイルスの迫る列島花御堂

奥州市 高橋 小秋

仔馬の名加ふ慰霊碑黄水仙

南相馬市 石橋 林石りんせき

雨上り地球の十倍虹の橋

一関市 今野 和今わこん

田植機を止めて隅隅手植かな

佐倉市 小池 成功

風運ぶ苗の香満ちて芭蕉祭

一関市 氏家 栄悦えいえつ

父の歩に合はす娘の花田植

一関市 小野寺 束子つかこ

初蝶のころころ鍬にこぐらかる

一関市 小野寺 束子つかこ

田植機の日暮れを惜しむ影法師

奥州市 及川 忠子

薔薇色の雲も代掻く毛越径

平泉町 岩渕 洋子

佳作

菜の花の寄り添ふ母となりいたり

横手市 今田 草水

一滴は天意の光雪解堂

岡山市 森 哲州てつしゅう

刻刻とこの世の色に羽化の蟬

奥州市 加藤 次男

折鶴の紙の重さや終戦日

八尾市 穂山 常男あきやま

白木蓮の花の記憶の辻曲がる

奥州市 阿部 靖きよし

一滴を雄勝硯へ卯波立つ

大崎市 佐々木克狼かつろうだ駄

牛飼ひの家を飲み込むチューリップ

奥州市 中村 セイ子

楠の風を聞く朝更衣

花巻市 菅原 砂登子

泰山木咲くや昭和の父の影

大崎市 只野 英子えいこ

息災や豆の花には豆の莢さや

川崎市 川島 由美子

蒲公英や歩けぬ犬の乳母車

平泉町 岩渕 眞理子

田水張る束稲山もさかしまに

平泉町 岩渕 眞理子

弁慶の大口袴風五月

盛岡市 安達 広子

五輪峠越ゆれば伊達や山法師

遠野市 菊池 伉ななお

春霖や玉虫のごと光堂

東村山市 富山 勉

振り向けば大き杉の樹山椒摘む

平泉町 佐々木 邦世ほうせい

山繭織の妣のものへも風を入れ

奥州市 鈴木 藤子

みちのくの輝き戻る五月かな

一関市 熊谷 典夫

コロナ禍の願文百卷落し文

奥州市 服部 常子

胃袋を失ふ夏のまた来たる

奥州市 鈴木 秀悦ひでえつ

特選

天 刻刻とこの世の色に羽化の蟬

奥州市 加藤 次男

句評 羽化したばかりの蟬の白さは、まさにこの世の色と思えない。しかしその白さも刻刻と変わる。

地 かつこうの声復興と聞こえけり

長崎市 西 史紀ふみのり

句評 東日本大震災から九年が過ぎたが、復興未だ成らず。郭公の声は励ましか、それとも…。

人 手付かずの夫の遺品や豆御飯

北上市 小笠原志保子

句評 季語から察してへ夫が亡くなってから、ある程度日が経ち、作者の心も落ちついている。しかしへ遺品に手をつける気持ちにはなれずにいるのだろう。

秀逸

教室の広くなりたる更衣

一関市 小山 尚宏おやま

折鶴の紙の重さや終戦日

八尾市 穂山 常男あきやま

蛙鳴く青い月夜の散居村

大崎市 京極 久也きよつや

蕉翁の句碑を去らざるかたつぶり

平泉町 鈴木 信まこと

ここもまた通行禁止朝桜

北秋田市 五代儀幹雄

田を植ゑて大地だんだん重くなり

奥州市 小野寺昭次

代を搔くそろりそろりと試歩のごと

奥州市 小野寺敦子

アテルイの砦の跡や下萌ゆる

花巻市 後藤 冴子

夏草やぼつかりと空く駐車場

一関市 桂田 一穂いっほ

うららかやそろそろ焼けてミートパイ

気仙沼市 熊谷 房子

佳作

百年は生きるつもりの大朝寝

横手市 今田 草水こんだ

万緑に声吸はれゆく能舞台

大崎市 砂金 元子いさご

狛犬の口あんぐりと蝶遊ぶ

大崎市 砂金 元子いさご

ででむしの角向く先に光堂

一関市 村上 一誠いっせい

暁闇の目覚めうながす時鳥

多賀城市 櫻井アエコ

牛飼ひの家を飲み込むチューリップ

奥州市 中村セイ子

莊園の名残の村や青田風

盛岡市 木関 偕楽

水墨の筆でむかへば山笑ふ

飯塚市 渡邊 秀雄

跳べさうで跳べぬ川幅猫柳

長岡市 伊藤 一二三かずふみ

関山の静寂をやぶる時鳥

盛岡市 鈴木 睦子

鷹鳩と化し年上の妻娶る

盛岡市 兼平 玲子

春眠の助手席といふ居場所かな

盛岡市 兼平 玲子

山峡の色走り出す穀雨かな

気仙沼市 佐藤 綾泉りょうせん

少年の壁打ちテニスつばくらめ

一関市 森 正江

芋植ゑてまつすぐな風背に受くる

盛岡市 和田 タケ

まつすぐに蟻進みけり義経堂

北上市 伊藤 晴子せいこ

庭にまた違ふ鳥来る日永かな

盛岡市 相馬 定子ていこ

あの曲は夫の麦笛朝厨

大崎市 門間としゑ

花冷えや休業宿の非常灯

平泉町 岩渕 洋子

特選

天 万緑に声吸はれゆく能舞台

大崎市 砂金いさご 元子

句評 中尊寺の能舞台を思わせる。謡が、能舞の周辺の万緑に吸はれ行く様は、正に幽玄そのものである。

地 囀を呑み込んでゆく池の黙

平泉町 岩渕 洋子

句評 囀が起り、静寂を保っていた池も、食るかの如く受け止めている。作者もその中に立ち尽くしているのであらう。

人 滴りの凹みしのちの水輪かな

北上市 下田 榮一

句評 水辺での一景、生命あるかの如く続く滴り、水辺に触れて作った凹みが水輪となつて広がる。自然営みに心奪われる。

秀逸

葉桜や栄華の往時懐しむ

奥州市 斉藤 径子みちこ

拝まれておがみかへして夕遍路

北上市 小原 生子せいこ

蝌蚪生まる泡のゆりかご中尊寺

盛岡市 工藤 幸子ゆきこ

おぼろ夜や山川草木みな仏

秋田市 岩谷 塵外じんがい

辛夷咲き村は静かに人の滅り

宮城県 鈴木喜久郎

田を植ゑて大地だんだん重くなり

奥州市 小野寺昭次

代搔きてむらに鏡を増やしけり

奥州市 伊藤さとる

万緑の風に色あり岩手富士

佐倉市 小池 成功

鳥の恋五百羅漢の口ゆるむ

花巻市 後藤 冴子

鶯のケキヨの完璧ひとり占め

一関市 沖田 誠子

佳作

強東風にささくれ立ちし水面かな

流山市 加藤 酔歩すいほ

かつこうの声復興と聞こえけり

長崎市 西 史紀ふみのり

折鶴の紙の重さや終戦日

八尾市 穉山あきやま 常男

一片の雲へ噴水立ちあがる

宮城県 佐藤 みね

戻れば高鳴る瀬音水芭蕉

北上市 早川 羽山うざん

三代の梅の白さや中尊寺

北上市 早川 羽山うざん

ぼうたんのよぢれてなほも散りしふる

平泉町 鈴木 信まこと

夏草や滅び美学の光堂

奥州市 鈴木 正子まさこ

月見坂浄土もしんと五月来ぬ

一戸町 犬股百合子

疫病の退散祈願青葉寺

奥州市 佐藤ゆき子

定年に径あるごとし蝮の道

佐倉市 小池 成功

夕暮のやはらかき風余花の寺

一関市 三浦 寿子ひさこ

文机に潜むは春の睡魔かな

大崎市 木村螢雪けいせつし

山峡の色走り出す穀雨かな

気仙沼市 佐藤 綾泉りょうせん

東稲山を映す代田の水鏡

花巻市 上野うわの 節子

落人の朽ちし墓碑守る夏薊

横手市 阿部清流せいらゆうし

五風十雨の祈り届かむ沙羅の花

一関市 沖田 誠子

奥羽山系芽吹きて山の形成す

西和賀町 門屋 允子みちこ

無人駅なれど打水してありぬ

本宮市 鈴木 正子まさこ

三密を避けて写経をみどりの日

北上市 小笠原志保子

小林 輝子 先生 選

特選

天 森青蛙世界遺産の懐に

一関市 三浦 寿子ひさこ

句評 中尊寺本堂の北隣に小沼がある。毎年この沼を覆う木の枝・沼岸の草などに森青蛙の白い泡状の卵塊を見ることが出来る。参道への道筋。これこそが世界遺産だと思う。

地 辛夷咲き村は静かに人の減り

宮城県 鈴木喜久郎

句評 辛夷の咲く頃、村の若者達は進学や就職のため村を離れてゆく。離れたくて離れるのではない。「静かに」で出る人の心・残る人の心が表現されている。

人 山繭織の妣のものへも風を入れ

奥州市 鈴木 藤子

句評 山繭の織物は丈夫で深い光沢がある。虫干の季節、母上の遺品の絹物も「かざいれ」をしたのである。母上のありし日をしのぶ一句となった。

秀逸

積ん読の本に手を出す日永かな

流山市 加藤 酔歩すいほ

暁闇の目覚めうながす時鳥

多賀城市 櫻井アエコ

払暁を来て平泉の日称ふ

宮城県 水戸 勇喜

葉から葉へ飛んで擬態の青蛙

栃木県 杉本 美風みふう

拝まれておがみかへして夕遍路

北上市 小原 生子せいこ

ゆく先に当てる如く急ぐ田水

奥州市 大石 文雄

弁慶の墓は巨きく花の雨

奥州市 大石 文雄

舐められて踏ん張り立てる子馬かな

北秋田市 坂 一草いっそう

光堂へ径をつなげる種漬花

平泉町 岩渕 洋子

三密を避けて写経をみどりの日

北上市 小笠原志保子

佳作

早苗田や居久根は島のごとく見ゆ

気仙沼市 昆野 克恵

老幹に揺れたをやかや糸桜
万緑に隠れるように義経堂

宇都宮市 岩戸志津枝
奥州市 小野寺洋一

刻刻とこの世の色に羽化の蟬

奥州市 加藤 次男

夏きざす光堂への石畳

登米市 及川奈奈夫

茎立菜母もの忘れすすみけり

横手市 森屋 慶基

下北の斧をもひしやぐ山瀬風

平泉町 鈴木 信まこと

法堂の縁の下なる蟻地獄ありじごく

平泉町 旭 光みつ

数珠ひとつ買うて緑の中尊寺

奥州市 鈴木 正子まさこ

虎杖の群るる空濠ゆれにけり

北上市 深澤 洋子ようこ

田を植ゑて大地だんだん重くなり

奥州市 小野寺昭次

穂の芽のぼつりぼつりんでら野

盛岡市 安達 広子

山脈は古のまま春霞

北上市 藤本カヅエ

やすらぎのため息もあり平泉の日

一関市 氏家 栄悦えいえつ

新しきオードトワレや春コート

盛岡市 西舘さゆり

薄氷を踏みて米寿の坂を越ゆ

一関市 佐藤きよし

田植機の日暮れを惜しむ影法師

奥州市 及川 忠子

鴉等にブレーキをふむ植田道

奥州市 及川 英子ひでこ

無人駅なれど打水してありぬ

本宮市 鈴木 正子まさこ

初桜一駅ほどを歩きけり

本宮市 鈴木 正子まさこ

特選

天 花莫莖に風入れ母のすわり胼胝 一関市 稲玉 宇平

句評 胼胝には母の人生の労苦が表れている。花莫莖に座って、涼風に包まれ、穏やかな表情を見せる母の姿が浮かび上がっている。

地 九年目の折りそれぞれ目刺焼く 気仙沼市 熊谷 房子

句評 東日本大震災から、はや9年目になる。被災の記憶は人によって様々だが、鎮魂の思いは同じなのだ。これからも、「目刺し焼く」日常が、変わることなく続いてほしいとの作者の折りが込められている。

人 鬼房に永久の胆沢や春の雪 宮城県 水戸 勇喜

句評 岩手県胆沢の地は、佐藤鬼房の母郷である。へ胆沢満月雪乃精二三片へを刻んだ句碑が建つ。まさに鬼房にとつての胆沢は、へ永久なる地。春の雪が、へ永久なる世界を明るく包み込んでいる。

秀逸

花の雨珈琲苦さほど清し 大仙市 鈴木 仁

ほうたるに逝きしばかりの兄さがす 多賀城市 櫻井アエコ

舐められて踏ん張り立てる子馬かな 北秋田市 坂 一草

辛夷咲き村は静かに人の減り 宮城県 鈴木喜久郎

三月の喪の潮騒を聴くばかり 宮城県 鈴木喜久郎

春の山まるごと食べてしまひたき 奥州市 郡司 幸子

復興の峠越ゆれば辛夷咲く 遠野市 菊池 伉

定年に径あるごとし蝮の道 佐倉市 小池 成功

満月を一つづつ抱く代田かな 北上市 鉄本 正人

奥羽山系芽吹きて山の形成す 西和賀町 門屋 允子

佳作

百年は生きるつもりの大朝寝 横手市 今田 草水

積ん読の本に手を出す日永かな 流山市 加藤 酔歩

金堂へ誘ふ近道著莪の花 奥州市 大石 文雄

判官の遁れし北の白き余花 盛岡市 木関 借楽

蕉翁の句碑を去らざるかたつぶり 平泉町 鈴木 信

弁慶の逝きし辺りか草矢飛ぶ 平泉町 鈴木 信

蕨狩る阿豆流為母禮の馳せし丘 秋田市 岩谷 塵外

泰山木咲くや昭和の父の影 大崎市 只野 英子

平行線交わりそうな朧の夜 川崎市 川島由美子

戦はぬ国の古刹や風薫る 一関市 伊藤けんた浪

清衡の願文いまに平泉の日 盛岡市 鈴木 睦子

宙返りだけの挨拶初つばめ 奥州市 伊藤さとの

森青蛙世界遺産の懐に 一関市 三浦 寿子

楸邨碑のまばらな光苔を這ふ 一関市 船山 邦子

春眠の助手席といふ居場所かな 盛岡市 兼平 玲子

五月闇使はぬ部屋の電子音 盛岡市 兼平 玲子

文机に潜むは春の睡魔かな 大崎市 木村螢雪子

母の日に届きし茶巾絞りかな 奥州市 鈴木 藤子

庭にまた違ふ鳥来る日永かな 盛岡市 相馬 定子

戲晴れ雨滴織り込む蜘蛛の網 気仙沼市 石川喜美子

特選

天 ゆるぎなき四方の山の桜かな

一関市 金野 幸弘

句評 コロナ禍で全世界、人類が危機に瀕している。こういう時代相において、この句に出会った。人間の営みはむなしなものだが、自然はゆるぎない存在だと思った。この句における桜の美しさが眼前に広がった。

地 一滴は天意の光雪解堂

岡山市 森 哲州

句評 品格のある一句。この雪解堂は金色堂か。雪解の季に作者は天の意思を想像し、その光を有難いものと感じているのだろう。尊いものが作者には見えている。

人 鷹鳩と化し年上の妻娶る

盛岡市 兼平 玲子

句評 春のどこか夢まぼろしのような気分と、年上の妻を娶ったことが、うま句評 春のどこか夢まぼろしのような気分と、年上の妻を娶ったことが、うま

秀逸

田水張る空の光を敷きし村

大崎市 砂金 元子

解かぬまま風にさらはれ落し文

多賀城市 櫻井アエコ

平行線交わりそうな朧わぼろの夜

川崎市 川島由美子

辛夷咲き村は静かに人の減り

宮城県 鈴木喜久郎

宙返りだけの挨拶初つばめ

奥州市 伊藤さとる

山峡の色走り出す穀雨かな

気仙沼市 佐藤 綾泉

満月を一つづつ抱く代田かな

北上市 鉄本 正人

芋植ゑてまつすくな風背に受くる

盛岡市 和田 タケ

老幹の噴く一輪のさくらばな

奥州市 梅森 サタ

薔薇色の雲も代搔く毛越径

平泉町 岩渕 洋子

佳作

漬けて焼き揚げて出来みる初なすび

千葉市 中村 智善

一斉にでんぐり返ろれんげ畑

岡山市 森 哲州

燕つばくろいの勢いきおいは風衣川

大仙市 鈴木 仁

一陣の風ともなひて来し夕立

流山市 加藤 酔歩

平泉の日空に戦士の影がある

宮城県 佐藤 みね

一片の雲へ噴水立ちあがる

宮城県 佐藤 みね

言霊の漂う舞台梅雨の蝶

一関市 村上 一誠

ダムダムの音聞く峡百戸遅桜

大崎市 京極 久也

月浮かべゆつくり自転大代田

奥州市 岩渕 正力

幼子に鳩のあつまる初ざくら

花巻市 菅原砂登子

舐められて踏ん張り立てる子馬かな

北秋田市 坂 一草

田植して莊園遺跡風となる

一関市 佐藤 光枝

三月の喪の潮騒を聴くばかり

宮城県 鈴木喜久郎

月見坂浄土もしんと五月来ぬ

一戸町 犬股百合子

ステイホーム風と遊ぶや花りんご

一関市 野村ときえ

春の山まるごと食べてしまひたき

奥州市 郡司 幸子

楸きゅう郵碑いしぶのまばらな光苔を這ふ

一関市 船山 邦子

高館の天と地つなぎ草萌ゆる

平泉町 岩渕 洋子

鮎あし跳ねて水の光と思ひけり

花巻市 安部 克詠

曲り堰豊楽奏で田水入る

平泉町 鈴木 四郎